

1 <等差数列> 初項 $a$ もしくは $a_1$ 、公差 $d$ 、項数 $n$ 、末項 $l$ とする。

一般項： $a_n =$

和①： $S_n =$

和②： $S_n =$   (末項 $l$ を用いて)

2 <等比数列> 初項 $a$ もしくは $a_1$ 、公比 $r$ 、項数 $n$ とする。

一般項： $a_n =$

和①： $S_n =$   (ただし、 $r \neq 1$ )

和②： $S_n =$   (ただし、 $r \neq 1$ )

3 <等差中項>  $\dots a, b, c$ が等差数列をなすとき、 $b$ を $a, c$ で表すと、

4 <等比中項>  $\dots a, b, c$ が等比数列をなすとき、 $b$ を $a, c$ で表すと、

5 <階差数列>

$n \geq$   のとき、一般項： $a_n =$

注 ①  $\Sigma$ 記号の後ろに付ける式は、階差数列の一般項である。

②  $\Sigma$ 記号は分配できる記号である。

6 < $\Sigma$ (シグマ)記号> ④の $c$ は定数とする。

①  $\sum_{k=1}^n k =$        ①'  $\sum_{k=1}^{n-1} k =$

②  $\sum_{k=1}^n k^2 =$        ②'  $\sum_{k=1}^{n-1} k^2 =$

③  $\sum_{k=1}^n k^3 =$        ③'  $\sum_{k=1}^{n-1} k^3 =$

④  $\sum_{k=1}^n c =$        ④'  $\sum_{k=1}^{n-1} c =$

参考  $\Sigma$ 記号の後ろに数列の一般項を置くことで、その数列の和を求めることができる。

7 <和から一般項>

①  =

②  $n \geq$   のとき、一般項： $a_n =$